

標準的な施工手順と注意点

1 事前確認

- フィルムの施工前に下記項目を確認してください。
 - 熱割れ計算を実施して確認済み。
 - フィルムに折れ・傷などの問題がない。
 - 屋内側に内貼り用製品、屋外側には外貼り用製品を選択している。
 - プールや浴室などの水がかかる場所ではない(但し、親水性フィルムは除く)。
 - サウナなどの高温・高湿環境ではない。
 - 貼る面は高性能熱線反射ガラスの被膜面ではない。
 - 貼る面は平滑なガラス面で凹凸がない。
型板ガラス、すりガラス、フロストガラスなど、凹凸のある面へは施工できません(但し、型板・すりガラス用フィルムは除く)。
また、一部の強化ガラスや網入りガラスの非磨き面は緩やかな凹凸がある場合がありますので、ご注意ください。
 - 複数枚の窓ガラスが同一面に並んでいる箇所に対して、同一ロットの製品が準備出来ている、もしくは、ロット違いの製品の間で外観上に違いがないことが確認できている。
- 貼り付け推奨温度は、12℃～38℃としています。特に、冬季の施工では、フィルムからの水抜け性や施工後に誤ってフィルムがずれてしまうことを考慮し、最低でも5℃以上の環境で施工してください。P.46「養生期間中の水残り現象」をご確認ください。
- 直射日光があたらない時間帯の施工を推奨します。直射日光があたっていると施工液が乾燥しやすく気泡が残りがすくなります。

2 防水養生

- マスカーやビニールシート、毛布、新聞紙などを、施工時に使用する水が飛び散る場所に敷きつめ、施工場所が汚れないようにします。

3 ガラスの清掃

- 強化ガラス、熱線反射ガラス、高性能熱線反射ガラスに対しては、スクレーパーを使用しないでください。
- ガラス上部は特にごみが流れ落ちてくるため、念入りに清掃してください。
- シーリングが劣化していたり、サッシがさびている場合等には、マスキングテープで周囲をマスクしてゴミが流れ落ちないようにしてください。
- 劣化しているシーリングは、必要に応じて端部をカッターとプラスチック板などを使って直線にカットしてください。

4 ガラスサイズの測定とフィルムのカット

- ガラスサイズよりやや大きめ(数十mm)に、大まかにフィルムをカットします。
- 図面の寸法は正しくない場合がありますので、必ず実測してください。
- 強化ガラス及び熱線反射ガラス表面でのカッターの使用は推奨しませんので、予め定寸でカットしてください。
- 高性能熱線反射ガラスの金属面へフィルム施工をご希望の場合は、事前に当社にお問い合わせください。
- ガラスサイズがフィルム幅より広い場合には、フィルムの繋ぎ合わせを行います。P.45「繋ぎ合わせ時の注意点」の施工方法を必ず守ってください。

5 フィルムの貼り付けと一次圧着

- 剥離フィルムを剥がした後の粘着面は、ゴミ、指紋などが付きやすいため、施工液を十分に噴霧し、取り扱いには注意してください。
- フィルム4辺のうち、ガラスとフィルムの位置を合わせる1辺については、2～3mmのクリアランスを確保して、仮圧着をしてください。

6 フィルムのエッジカット

- プラスチックヘラなどに合わせてカッターを移動し、フィルムのエッジをカットします。この時、シーリングやガスケットにフィルムが乗り上げると、シワが発生して剥がれたりゴミや水が入りやすくなったりしますので、2～3mmのエッジスペース(隙間)を確保してください。
- 強化ガラス及び熱線反射ガラス表面でのカッターの使用は推奨しませんので、予め定寸でカットしてください。
- ガラスの種類によらず、2～3mmのエッジスペース(隙間)があっても、飛散防止性能には影響はありません。

7 フィルムの本圧着

- スキージーが1/2～1/3程度重なるように、圧着をしていきます。
- フィルム表面に施工液を噴霧しないと滑り性が悪いため、傷が付く原因となります。
- フィルム端部の浮きを防ぐため、特にエッジ部分はしっかりと圧着し、確実に水を抜いてください。
- 金属膜タイプのフィルムは水の透過性が低いため、特に注意が必要です。

8 点検と清掃

- フィルム端部に水が残っているとフィルムが浮いてくる原因になる可能性がありますので、確実に拭き取ってください。
- 施工後のフィルムの端材、貼り替え時に発生した廃材を廃棄する場合、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従い処分してください。